

## 令和5年度事業報告書

自 令和5年 1月 1日  
至 令和5年12月31日

一般社団法人 日本書道院

当法人の令和5年度に於いて実施した事業は次のとおりである。

### 1. 第72回日本書道院展

コロナによる各種行動制限が緩和される中、4月2日（日）～8日（土）まで第72回日本書道院展を開催しました。

公募と同人以上の出品作品総数は前回展から53点減の1003点でしたが、上野公園周辺の活気も戻り、入場者はコロナ禍前のピーク時の8割程度の8487人を数え大変盛況でした。72回展の文部科学大臣賞は第49回展で詩文書部を新設してから24回目の展覧会で初めて詩文書作品が選考され、受賞者は白石東苑理事でした。役員作品をはじめ日本書道院展の顔となる作品の並ぶ第1室から2室3室と続く陳列は、明るく華やいだ展覧会となり関係各方面に好評を博しました。半紙サイズの「咲蕾展」も150点ほどの出品があり、日本書道院展の中にすっかり定着した感があります。初出品の方から審査会員まで一緒に楽しめるサイズです。今年も皆様の出品を期待しております。

4月7日（金）の表彰式と「出品者の集い」は3年ぶりに、ホテルラングウッド会場で併せて開催いたしました。ご来賓もご出席頂いた「出品者の集い」は160名を超える出席があり、参加者の笑顔がこぼれる楽しい会となりました。

### 2. 第72回全国学生書道展覧会開催と表彰式

第72回全国学生書道展覧会は4年前に襲ったコロナ禍で、書道教室へ通えなかった世代の学年の出品点数が伸びずに80点程度の減少となりましたが、1517点と1500点を超える力作が揃いました。親子連れが多く、学生書道展の嬉しさ一杯の展覧会会場が戻ってきました。今年の高校生の作品は全体的にレベルが高く、文部科学大臣賞の受賞者は、5年前に埼玉県知事賞を小学生で受賞された方が高校2年生で受賞しました。初の2冠です。

4月4日（火）の表彰式は初めての会場となる、不忍池のほとりの上野・東天紅で開催しました。落ち着いた会場からの景色も良く、晴れやかな表彰式が出来ました。今年も同じ会場で開催いたします。

### 3. 第 11 回 100 人展・第 40 回選抜展・第 15 回同人展

11月21日(火)～26日(日)まで100人展をセントラルミュージアム銀座で、選抜展・同人展をフェニックスホールで予定通り開催しました。出品総点数は329点、昨年より19点の減でした。

100人展会場は壁面レイアウトを変えて、会場のどこから見ても全体感が見える陳列とし、壁面の圧迫感の無いユッタリとした会場で「漢字・かな・詩文書」の三位一体感を味わうことができました。

選抜展・同人展が開催された1階2階も配置を工夫し明るく広い会場を創り出しました。天候にも恵まれ入場者1904人と盛況でした。

11月26日(日)の懇親会は、帝国ホテル「光の間」で来賓を含め117名の参加でした。同人展の「優秀賞」と選抜展「錦楓賞」の受賞者に加えて、第72回日本書道院展同人昇格者の表彰も行われ、温かい和やかな懇親会となりました。

### 4. 第 74 回毎日書道展

第74回毎日書道展は搬入がコロナの行動規制の無くなる5月GW明けとなったことから、4年前のスケジュールにほぼ戻りました。日本書道院の総出品点数は777点(遺墨2点を含む)でした。毎日賞6名・秀作賞11名・佳作賞27名に加えて、U23で奨励賞2名と好成績でした。表彰式は7月23日(日)にザ・プリンスパークタワー東京で開催されました。ただし、2000名を超える当日の出席者全員での懇親会は毎日書道展としては開催せず残念でした。日本書道院の懇親会は同ホテルで開催いたしました。遠方からの受賞者も参加して、役員や毎日展委員として働いた方々も出席して、4年ぶりの楽しい懇親会となりました。

### 5. 詩文書作品実技勉強会

6月11日(日)と11月3日(金・祝)の午前中に、新しい試みとして詩文書作品実技勉強会を開催しました。参加者が揮毫したものを添削するのではなく、事前に課題を伝え半切又は半切2分の1サイズに自由に纏める勉強会です。中村会長から詩文書作品の構成・揮毫のポイント説明の後、1時間程度の揮毫時間ですが、会長以下出席役員のアドバイス等で参加者がそれぞれ作品を書き上げ、全員で構成や墨色等のアイデアを学び合いました。参加者は川口リリア10階和室の90畳が満員になる40名を超えて盛況でした。

### 6. 支部長会

詩文書実技勉強会と同じ6月11日(日)と11月3日(金・祝)午後、第44

回と45回の支部長会を開催いたしました。会場は川口リリアの10階和室会場を使用しました。

参加者は6月が57名、11月が49名でした。師範・準師範・昇段級試験の作品揮毫の注意事項について、中村会長が漢字と詩文書課題、成田常務理事がかな課題について、使用する紙や墨や筆についても丁寧な説明を頂きました。

また、11月の支部長会では事務局からは税制の改定による「日本書道」誌代やその他の送金等について支部長へご協力をお願いいたしました。

## 7. 研修旅行

「日本書道」誌上で2年以上にわたりコラム「筆硯こぼれ話」をご担当頂いている連合企画川野様のご提案で、9月30日(土)～10月1日(日)の日程で、愛知・岐阜・三重の三県を巡る研修旅行を実施しました。初日は「春日井市・小野道風記念館」と長良川沿いの金華山周辺。二日目は四日市市・澄懷堂美術館と名古屋市内・徳川美術館を巡り、日本の古筆から中国書跡と美術品に加え、戦国から江戸時代の史跡や絵画を堪能しました。30食限定の「家康御膳」も大好評でした。大変内容の濃い研修旅行でした。参加者は25名でした。

## 8. 書道研修会の開催

(1) 日本書道院展・毎日書道展向けの研修会を、1月30日(月)に川口リリアで開催しました。実技参加者と添削作品合わせて102名の参加でした。

(2) 100人展・選抜展・同人展向けの研修会は、7月27日(木)に川口リリアで開催しました。郵送での添削も含めて57名の参加でした。

本年3月から川口リリアが改修工事の為、各種展覧会向けの研修会は会場を変更して開催いたします。

(3) 他に各支部主催による錬成会・研修会が開催されました。

(開玄社合宿錬成会・水光会作品研修会・玄同社錬成会)

## 9. 師範・準師範・昇段級受験者のための研修会

師範受験者等への研修会も川口リリアで開催し、郵送も含めて42名が参加しました。この研修会に参加した師範受験者は全員合格いたしました。なお、今年は師範・準師範受験者向けの規定課題や臨書について実技での研修会を新たに企画しています。多くの方の実技参加をお待ちしています。

## 10. 各種師範合格認定証交付

「日本書道」誌8月号と12月号で合格を発表した荣誉師範と漢字・かな・詩文

書・硬筆の師範合格者へ認定証を12月11日以降に送付いたしました。認定者は89名でした。榮譽師範認定者は8月号の「日本書道」誌にて顔写真付きで紹介し、漢字・かな・詩文書・硬筆の認定者は令和6年1月号の「日本書道」誌にて顔写真付きで紹介いたしました。

#### 11. 機関誌「日本書道」の刊行

昭和32年11月創刊以来、令和5年12月現在をもって通刊794号を数え、12月号の発行部数は3,550部である。本年6月号で800号を迎えます。

#### 12. 関係文化団体との協力について

関係文化団体との連絡提携には格別の意を用いている。公益社団法人全日本書道連盟は維持団体、一般財団法人毎日書道会は参加団体、一般財団法人日本中国文化交流協会は特別会員として加盟している。

なお、中村雲龍会長は全日本書道連盟顧問・毎日書道会顧問・日本中国文化交流協会常任委員として協力している。また三宅相舟副会長は毎日書道会監事・遠山白雲副会長は全日本書道連盟理事として協力している。

#### 13. 会員との連絡について

会員との連絡については、機関誌「日本書道」を通じて周知徹底を図っているが、別に重要な事業については直接会員に通知している。なお、12月1日現在の会員名簿を作成した。

#### 14. 会報の発行

12月20日付をもって「会報」46号を発行した。

#### 15. 役員会及び各種委員会の開催

役員会7回          各種委員会・打合せ会8回

#### 16. 支部の指導と地方展の後援

支部の行事と地方展に対する指導後援は次のとおりである。

- |     |     |              |    |          |
|-----|-----|--------------|----|----------|
| (1) | 1月  | 開玄社書展        | 1月 | 祐正社展     |
|     | 1月  | 高橋静豪「米壽の書」   | 2月 | くれない会書展  |
|     | 6月  | 祥祇会書展        | 7月 | 龍龍会書展    |
|     | 7月  | 書業55年 三宅相舟の今 | 9月 | 鶯遊会書展    |
|     | 10月 | 葵心会書展        |    |          |
| (2) | 1月  | 玄同社錬成会       | 7月 | 開玄社会宿錬成会 |
|     | 7月  | 水光会作品研修会     |    |          |

